

TokyoTech（東京工業大学）OCW の紹介

2008 年度 情報教育研究集会

特別セッション

〈オープンコンテンツの世界的潮流〉（JOCW）

2008.12.12（金） 14:30 – 14:45

馬越庸恭（MAKOSHI, Nobuyasu）

東京工業大学・GSIC〈学術国際情報センター〉

研究・教育基盤部門 / 遠隔マルチメディア教育分野

TokyoTech OCW WG 主査

0. 自己紹介

- 所属
 - 本務：GSIC〈学術国際情報センター〉
 - 兼担：HSS〈大学院社会理工学研究科・人間行動システム専攻〉
 - 協力：FLC〈外国語研究教育センター〉
 - 1996 / 1997 年度 初代・外国語研究教育センター長
- 関係したプロジェクト等
 - イノベーション研究推進体 研究代表者
 - 〈次世代型多元的高度TV会議式教育システム〉
 - COE 21 LKR サプリーター
 - 〈大規模知識資源の体系化と活用基盤の構築〉
 - OCW
 - TokyoTech OCW WG 主査
 - JOCW 幹事
 - ICT活用教育支援協議会
 - 副会長
 - 4 大学連合複合領域コース IT 化推進コンソーシアム代表

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

2

全体の構成

1. TokyoTech OCW の現状
2. TokyoTech OCW の運営形態
3. TokyoTech OCW の特色
4. TokyoTech OCW の課題
5. TokyoTech OCW の問題点
6. OCW について

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

3

1. TokyoTech OCW の現状

- **370** 科目（コース）公開（2008.12.09 時点）
 - 内、英語版は **41** 講義
- Access / 訪問者数
 - 2008.09: **50,834**
 - 2008.10: **68,958**
 - 2008.11: **65,757**

2. TokyoTech OCW の運営形態

- 担当理事・副学長（教育担当）
 - 教育推進室
- TokyoTech OCW WG
 - mission
 - » JOCW / OCWC / CC (Creative Commons) との連絡・連携
 - » 著作権問題の処理
 - » OER (Open Educational Resources) の動向把握
- TokyoTech OCW・LMSタスクWG
 - mission
 - » OCW コンテンツ up システムの開発 & 運営
 - » OCW システムと学務システム等との統合

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

5

3. TokyoTech OCW の特色

- 打ち上げた科目（コース）数が、他の JOCW 参加大学と比較して、多い
- ユニークな or 波乱含みの入力システム
 - TokyoTech OCW 科目（コース）コンテンツを提供する各教員が自分で up する
 - 物品購入や研究者情報の入力システムに似たシステム
- 東工大ポータルサイトから認証・認可システムに基づいて access

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

6

Tokyo Tech OCW Webサイト



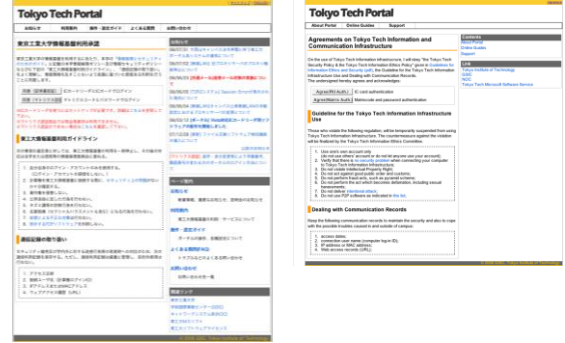
特徴

- 2重構造
 - 学外**閲覧者向け**のOCWサイト
 - 各教員によるコンテンツ**登録支援サイト**
 - 東工大ポータルページより**キャンパス共通認証・認可システム**経由でログイン

東工大身分証



Tokyo Tech Portal



サービス一覧

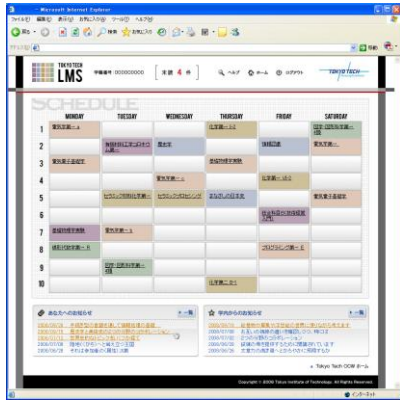


システム拡張を計画中

学内情報資源の分散埋没解消へ

- 2009.04 より稼働予定
- 学生向けサービスの機能強化 (学内限定)
- コンテンツの多形式化
 - PDF形式の制約を緩和
- 学内他システムとの連携
 - 教務情報システム
 - キャンパス認証・認可システム
 - UPKI (全国大学共同電子認証基盤) 雛形の構築
- 旧システム + 軽量LMS機能 Learning Management Systems
 - 情報のタイムリーな配信 (RSS)
 - ・ 講義資料の登録・更新
 - ・ 課題一覧

学生向け画面例



教員向け画面例



4. TokyoTech OCW の課題

- OCW コンテンツに関する IP (知的財産権) 問題の処理
 - 副次的に, digital 教育コンテンツの情報発信に際しての著作権問題の処理
 - 今までのところ, WG として大学の要請に基だ不十分にしか対応できていない
 - 原因
 - TokyoTech OCW 発足時の二重構造
 - 専従の人材配置の有無
- JOCW (Japan OCW Consortium) との連絡・連携
- Global / International OCW Consortium との連絡・連携
- OER (Open Educational Resources) のグローバルな動向把握

5. TokyoTech OCW の問題点

- TokyoTech OCW コンテンツが, 他人の著作権を侵していないかどうかについて
 - 各教員の判断に委ねている
 - 基本的には, digital コンテンツの著作権処理を著作権について素人である教員が自分の判断だけで処理することは無理, 或いは, 大変に難しい
- MIT OCW の場合は
 - 当初 2 名の弁護士を雇い, 著作権処理のフォーマットを作成し, 又, それに基づいて, 専従のチームが著作権処理を遂行した
 - 或る程度, フォーマットが出来上がってからは, 弁護士抜きで, 専従のチームが処理できるようになっていった
- 東京大学, 京都大学, 北海道大学等では
 - フル雇用の IT / eラーニングに強い職員を雇用するか, 或いは, 特任の教授/准教授が採用され, 著作権に關係する出版社等との折衝に当たっている
 - 又, 専従者が, 学生アルバイトを指揮して, 出版社等との遣り取りを処理している

6. OCW について

- 6.1. OER と OCW
- 6.2. OCW と eラーニング
- 6.3. 時代的な背景
- 6.4. OCW の展望
- 6.5. Globalization と Localization
- 6.6. OCW の URL

6.1. OER と OCW

- OCW は OER (Open Educational Resources) の一環
- OER は Open Resources Movement の一環
 - Soft
 - Data
- OCW と eduCommons
- system 導入に関してのコストか手間かの悩ましい trade-off の関係
- LMS (Learning Management System) / CMS (Contents Management Software) 等の Platform にしても
 - Moodle や Sakai は内部に相当の人力と技術力がないとカスタマイズも維持運営・バージョンアップもできない

6.2. OCW と eラーニング

- OCW が果たして何であるか、本当のところは、(未だ)、見えて来ていない
- OCW が eラーニングの一種であるかどうかは
 - eラーニングの定義次第
- OCW の波及効果
 - FD 的效果
 - 大学経営の IT/ICT を軸とした再編効果
 - 競争と共有をめぐる試行錯誤的側面

6.3. OCW の時代的な背景

- 時代背景
 - 1989.11.01 〈ベルリンの壁崩壊〉
 - 2001.09.11 〈世界貿易センタービル瓦解〉
- 〈21世紀〉の〈三位一体〉
 - IT/ICT の著しい発展
 - Globalization
 - Borderless
- 大学存続・生き残り・発展の基本条件
 - 情報公開 / Disclosure

6.4. OCW の展望

- MIT OCW の理念・大義名分の見事さ / 優れた戦略性
- MIT OCW 成功の最大原因は eラーニングとしなかったこと
- 20 世紀には見られなかった発想
 - 21世紀の Higher Education の何を & 何処まで変えるかは未知数
 - 強力な **Transformative Force** として広範囲に影響を及ぼす
- OCW は、(現状では)、各大学の Show_Case / Show_Window 的性格が強い
- OCW が MIT OCW が掲げていた当初の理念を実現するためには
 - eラーニングの素材として利用される**条件・環境整備**が必要
 - User が interactive なネットワークを展開すれば、道は開けるかもしれない

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

21

6.5. Globalization と Localization

- **Globalization** の 2 面性
 - 一方で
 - グローバル・スタンダード or USA 的ルール・規格の圧力
 - 他方で
 - **Localization** の必要性・必然性を浮き彫りに
- for example :
 - MIT OCW が Africa へ MIT OCW コンテンツを持ち込もうとした時
 - オリジナルのコンテンツで使われていた比喻
 - 野球
 - Africa の人々には馴染みがない
 - localize (サッカーを使った比喻に置き換え) によって理解され易くなった

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

22

6.6. OCW の URL

- **MIT OCW**
<http://ocw.mit.edu/OcwWeb/web/home/home/index.htm>
- **JOCW**
<http://www.jocw.jp/>
- **Tokyo Tech OCW**
<http://www.ocw.titech.ac.jp/>
- **OCW Consortium**
<http://www.ocwconsortium.org/>

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

23

Thank you !

Freitag, 12. Dezember 2008

TokyoTech OCW の現状

24